

## 令和6年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力や態度を養い、社会的に自立できる人間を育成する。

＜校訓＞ 明朗 誠実 敬愛

### 2 学校の特徴

本校には、聴覚障害のある幼児児童生徒が在籍し、社会自立を目指して、幼稚部から高等部までの一貫した教育を行っている。高等部においては、平成22年度に福祉・サービス科を設置し、軽度の知的障害のある生徒が共に学び、生活する中で、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力や態度を養い、地域社会で生きる力を育てている。

また、聴覚障害教育センターを併設し、特別支援教育のセンター的役割を担い、聴覚障害の早期発見・早期教育、あらゆる年齢層の相談に応じ、地域に開かれた教育相談支援を目指して活動を行っている。

### 3 学校の現状と課題

#### (1) 現状

- ・幼児児童生徒の在籍数の減少により、一人学級や少人数学級のため、集団による学習活動が難しくなっている。他学部や地域の学校との交流、聴覚障害と知的障害の障害種を超えた交流など、好ましい人間関係の構築や集団行動を身に付けるための場の工夫が必要である。
- ・聴覚障害及び知的障害それぞれの障害の特性から、日本語の習得やコミュニケーション力の向上等において様々な困難を抱えている。また、自信のなさから人との関わりや物事への取組が消極的になりがちであり、個々の実態に応じた指導・支援の工夫が必要である。
- ・社会的・職業的自立に向けて、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通して、思考力、判断力、表現力等の「生きる力」を身に付けていくために、自己有用感を高めながら各学部段階でのキャリア教育を推進する必要がある。また、高等部では、多様な課題を抱えた生徒の自己理解を促し、能力や特性に基づく職業観を育成するなど、進路指導の充実が求められる。
- ・聴覚に障害のある幼児児童生徒には、個々の実態に応じたコミュニケーション手段を併用して、言語力とコミュニケーション力の向上を図っている。また、聴覚障害教育センターの役割として、県西部の聴覚障害者の多様なニーズへの対応、総合的な指導・支援の充実を図る必要があり、聴覚障害教育に関する専門性の維持・向上に向け、知識や技能の継承の体制作りを強化していく必要がある。
- ・災害や疾病に起因する突発的に発生する事態など緊急時における校内の体制づくりに努め、教職員の対応力を強化する必要がある。

#### (2) 課題

- ア 障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実  
(主体的に行動できる幼児児童生徒の育成)
- イ 聴覚障害教育、知的障害教育についての専門性の向上と、知識や技能の継承
- ウ 地域に開かれた学校としての教育活動の推進
- エ 健康で安全な学校づくりのための人的、物的環境の整備
- オ 組織的・計画的な学校経営と共通理解・相互協力の推進

#### 4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画		
1	学 習	幼稚部 <b>重点1</b>	目標	・自ら進んで情報を得ようとする幼児を育てるため、視覚情報の提示の仕方を工夫する。
			計画	・図書館司書と連携し、季節やその時期に行う行事に関連した絵本の読み聞かせを行う。 ・自分から好きな絵本を選ぶことができるよう、絵本の配置を工夫したり、幼児が図書室で本を選ぶ時間を設定したりする。
		小学部	目標	・日常生活で使う簡単な手話を実際に活用する場面を設定し、より円滑なコミュニケーション手段の習得を図る。
			計画	・集会に「今週の手話」としてテーマ別に毎週5～6個の新しい手話単語を学習する機会を設定する。 ・集会や行事において簡単な手話を使って司会や発表ができるようにする。
		中学部	目標	・キャリア・パスポート作成を通して、自分の成長を実感し、将来への展望をもつことができるよう支援する。
			計画	・学校行事や就業体験等で、昨年度の自分の活動を踏まえ、具体的な目標設定ができるようにする。 ・上学部生徒の活動の様子を知り、将来への見通しをもてるようにする。
	高等部	目標	・キャリア・パスポートを活用して社会的・職業的自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を育成する。	
		計画	・学校行事やインターンシップ等で自己の役割や課題を踏まえた具体的な目標設定ができるようにする。 ・生徒が自己の活動を振り返り、他者との対話的な関わりを通して新たな目標や課題をもてるようにする。	
	2	学校生活	目標	・ランチルームの掲示や企画を通して、給食時間の充実を図る。
			計画	・配膳環境を整え、幼児児童生徒が衛生面に気を付けて給食の配膳を行うことができるよう支援する。 ・幼児児童生徒が交流しながら楽しく給食を食べる機会を設定する。
			目標	・危機管理マニュアルを基に、教職員がいつでもどの立場になっても緊急時に行動できる対応力を高める。
			計画	・更新した危機管理マニュアルをより使いやすくなるよう訓練ごとに見直す。 ・緊急時の対応について、教職員の研修会を計画的に実施し、組織としての危機管理体制を整える。
3	進路支援	目標	・インターンシップにおける各企業からの評価表を活用し、生徒への効果的な支援を行う。	
		計画	・評価表の各項目をレーダーチャート化し、各生徒の課題を分析する。 ・各生徒の課題を受けて、指導・支援する教科や場面の選定、支援方法について、支援会議を開催して検討する。	
4	特別活動 <b>重点2</b>	目標	・自分から進んで、誰にでも挨拶できる幼児児童生徒を育成する。	
		計画	・「さわやか運動」をきっかけにして、全校の幼児児童生徒が子供同士や大人との関わりを通して、自分から挨拶できるようになる取組を工夫する。 ・発達段階に応じて幼児児童生徒がやってみたい挨拶をイメージし、挑戦したり、振り返ったりする機会を設定する。	

5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業の機会を通して、教員の専門性の向上及び知識や技能の継承を図る。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害教育の実践を多く積んだ教員の授業を参観するように設定するなど、授業参観の時期や方法を検討して実施する。</li> <li>専門性が必要となる実際の場面を体験する機会を設定する。</li> </ul>
		目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種名簿の管理を一元化し、個人情報の管理を適切に行うようにする。</li> <li>案内状等の発送業務を効率的に行えるよう、発送名簿の管理方法や作成方法を工夫する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事や担当ごとに保管されていた名簿を一つにまとめ、適切に管理する。</li> <li>目的に合わせて発送先を抽出できるよう名簿データを工夫する。</li> <li>各種案内状の送付について、案内発送の停止希望やメールでの案内希望などを確認し、郵送による発送数を削減するよう取り組む。</li> </ul>
		目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児児童生徒が「主体的な学び」を育むための授業づくりに取り組む。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>育成する資質・能力の三つの柱に沿った目標設定や評価をするための学習指導案の様式を整える。</li> <li>聴覚障害教育及び知的障害教育に関する教師の支援や、指導上の配慮事項について共通理解を行い、良い取組を共有するようにする。</li> </ul>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 - 幼稚部 -
重点課題	自分から絵本を手にとろうとする幼児の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚部幼児は、お知らせ黑板にある写真やイラストの掲示があると、興味をもって自分から情報を得に行く様子がみられる。識字については、読めるようになった平仮名を一文字ずつ読んで、絵と対応できる言葉が増えてきている段階である。</li> <li>・ 本は、聴覚障害のある幼児にとっても、読み手の音声言語や手話、指文字等と、絵本の絵や文字などの視覚的な情報を手掛かりすることで、言語面や情緒面等の発達を促すことができる大切な教材である。</li> <li>・ 幼稚部では、保護者又は教員と幼児による読書発表会を年に3回設定し、絵本に親しむ機会を設定している。また、本校の図書室から毎月10冊程度の絵本を選定して幼稚部に配架している。しかし、ふだんの遊びの中で、幼児が自ら興味をもって絵本を手にとろうとする姿はあまり見られない。そこで、幼児が自ら絵本を手に取り、読んでもらいたいと思えるような環境設定や読み聞かせの工夫が必要である。</li> </ul>
達成目標	<p>幼児が進んで絵本を手にとろうとする環境設定や読み聞かせを行う。</p> <p style="text-align: center;">5回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から好きな絵本を選ぶことができるよう、絵本の配置の工夫や選定を図書館司書と連携して行う。また、図書室に行って、たくさんの本に触れたり、自分で本を選んだりする時間を設定する。</li> <li>・ 自分から絵本を読みたいという意欲を育てることができるよう、図書館司書と連携をして季節やその時期に行う行事に関連した絵本の読み聞かせを、手話や身振りを用いながら行う。</li> </ul>

（評価基準） A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	特別活動 - 生活支援部 -
重点課題	自分から進んで、誰にでも挨拶できる幼児児童生徒の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴覚障害のある幼児児童生徒と知的障害のある生徒のそれぞれの障害の特性から、人との関わりが消極的になりがちである。挨拶を交わすことで相手に伝わった喜びや心地よさ、達成感を感じる取組の一層の工夫が必要である。</li> <li>・ 社会自立が目前に迫っている高等部生徒においては、インターンシップでの挨拶や質問、報告などの場面で自分からの発信の少なさが課題となっている。日頃から生徒同士や大人との関わりを通して挨拶をすることを習慣付け、自信をもって相手や場に応じた挨拶、言葉遣いができるようにする必要がある。</li> </ul>
達成目標	<p>幼児児童生徒が自分から主体的に挨拶できる取組を全校で実施する。</p> <p style="text-align: center;">2回</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春の「さわやか運動」をきっかけにして、幼児児童生徒がいろいろな人と挨拶するための環境づくり（あいさつビンゴなど）を行う。挨拶の意義を考えるため、児童会や生徒会が中心になり、行事の企画、準備、振り返りを行うよう支援する。</li> <li>・ 秋の「さわやか運動」では、幼児児童生徒が主体となって目指す挨拶像を掲げ、挨拶の仕方を意識して取り組む機会を設定する。幼児児童生徒が成果を確かめ、その後の日常生活で継続して挨拶を実践できるように促す。</li> </ul>